

# 検 査 部

## 1 構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	2人（2人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	18人
その他（技術補佐員等）	13人
合 計	33人

## 2 教員の異動状況

飯野 和美（助教）（H17. 4. 1 現職）

橋本 大（助教）（H20. 3. 1 現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5編（0編）
そのインパクトファクターの合計	14.20
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hashimoto D, Nagata T, Uchijima M, Seto S, Suda T, Chida K, Miyoshi H, Nakamura H,

Koide Y: Intratracheal administration of third-generation lentivirus vector encoding MPT51 from Mycobacterium tuberculosis induces specific CD8+ T-cell responses in the lung. Vaccine. 26: 5095-100, 2008.

インパクトファクターの小計 [3.377]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Enomoto N, Suda T, Uto T, Kato M, Kaida Y, Ozawa Y, Miyazaki H, Kuroishi S, Hashimoto D, Naito T, Fujisawa T, Matsui T, Inui N, Nakamura Y, Sato J, Mizuguchi T, Kato A, Chida K: Possible therapeutic effect of direct haemoperfusion with a polymyxin B immobilized fibre column (PMX-DHP) on pulmonary oxygenation in acute exacerbations of interstitial pneumonia. Respirology: 13: 452-60., 2008.
2. Miyazaki H, Suda T, Otsuka A, Nagata M, Ozono S, Hashimoto D, Nakamura Y, Inui N, Nakamura H, Chida K : Tiotropium does not affect lower urinary tract functions in COPD patients with benign prostatic hyperplasia. Pulm Pharmacol Ther 21: 879-83, 2008.
3. Aoshi T, Nagata T, Suzuki M, Uchijima M, Hashimoto D, Rafiei A, Suda T, Chida K, Koide Y: Identification of an HLA-A\*0201-restricted T-cell epitope on the MPT51 protein, a major secreted protein derived from Mycobacterium tuberculosis, by MPT51 overlapping peptide screening. Infect Immun 76: 1565-71, 2008.
4. Yamashita M, Oki Y, IinoK, Hayashi C, Matsushita F, Faje A, Nakamura H : The role of ether-a-go-go-related gene K(+) channels in glucocorticoid inhibition of adreno-corticotropin release by rat pituitary cells. Regul Pept. 2009 Jan 8;152(1-3): 73-8. 2008

インパクトファクターの小計 [10.825]

#### 4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	4件 (406万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 石川仁子（代表者）若手研究（B）

「マイクロRNA機構による腫瘍産生アミラーゼの病態解明と予後不良要因に関する研究」

2. 濱田悦子（代表者）奨励研究

「血清アミラーゼ活性の基準範囲はアミラーゼ遺伝子のコピー数多型に依存するか」

3. 澤村 暢（代表者）奨励研究

「ヒト培養細胞への遺伝子導入・発現阻害によるフィブリノゲン生成・分泌に及ぼす影響」

4. 名倉理教（代表者）奨励研究「多重座位VNTR解析の院内感染対策への実用化に関する研究」

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	3件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Ino K, Oki Y, Matsushita F, Yamashita M, Hayashi C, Yogo K, Nishizawa S, Nakamura H: A possible relevance between prohormone convertase-2 expression and tumor growth in human ACTH-producing pituitary adenoma. 90<sup>th</sup> The Endocrine Society's Annual Meeting, 2008 6, San Francisco (USA).
2. Hamada E, Sawamura N, Taniguchi T, Okada M, Yokota N, Maekawa M: A Japanese patient of congenital afibrinogenemia with vertebral artery dissection. American Association for Clinical Chemistry, 2008 7, Washington (USA).
3. Hamada E, Fujiwara A, Takumi H, Maekawa M: Evaluation and performance characteristics of the automated coagulation analyzer Coapresta 2000. American Association for Clinical Chemistry, 2008 7, Washington (USA).

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第48回日本臨床化学学会年次学術集会 2008年 8月 浜松

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 各種ホルモン産生下垂体腫瘍における、Prohormone convertase 2 (PC2) や細胞増殖関連蛋白の発現について検討し、これらが下垂体腫瘍の活動性や腫瘍増大能に関与しているか、臨床的に下垂体腫瘍の活動性を評価する指標として有用であるか、を決定する研究を行った。2008年度に国内外の学会にて成果を発表し、現在英文雑誌に投稿中である。

(飯野和美)

2. ラット正常培養副腎皮質細胞を用いてACTHによるコルチコステロン産生に用いられるCaイオンの供給メカニズムについての研究を行った。2007年度に国内外の学会にて成果を発表し現在英文雑誌に投稿中である。

(飯野和美)

3. 唾液の高感度微弱発光測定法が、身体に対するストレスを評価する新しい方法として実用的かどうかを検証するために、各種呼吸器疾患患者において唾液を採取し分析している。

(橋本 大)

4. 低肺機能成人喘息患者におけるネブライザー吸入式ステロイド剤の治療効果に関して検討を行い、国内学会にて発表した。論文投稿予定である。

(橋本 大)

## 15 新聞、雑誌等による報道

1. メタボ健診題材に講演 静岡新聞 8月26日
2. 浜松で臨床化学会開幕 静岡新聞 8月30日
3. 調査結果を研究者発表—臨床化学会が学術集会 中日新聞 8月30日
4. メタボ健診へ知識深める 静岡新聞 9月1日